

小原小四郎氏

優麗にして
能く威容
備はる

宜なる哉、多年官界に游泳し、警察署長として剛腹の質、諸般の性、夙に斯界の仰の的となりて令名あり。嘗て池田署長として任に在り、司法行政を統括して民衆の利福に資し、治安警察の實舉りて功績顯著たり、而も官界を勇退し、尙ほ後中生を捧ぐるを以て本町の爲めにす、氏の如きは町發展の上に偉大なる貢獻者と推稱し得べく、舉げられて選良となる、衆望の當に然らしむる處たり、其の議席に在るや、常に團將の急先鋒を以て許され、主張論議の上下、よく正鵠を穿ちて愚憚なく、町治に裨益する處紛ながら智識階級を網羅せる新市街の代表者として、名實共に具備す、區長を兼ね、池田自動車株式會社の監査役たり、

山岡勝三郎氏

家に在りては勤儉
産を治め
外に在り

ては忠實業に服すは、蓋し氏を指しての謂ひか、其の家は質商を業とす、以て大に力を盡し、常に開黨の治安を圖り、幸福を進むるを以て急を爲す、其の町會議員となりては、既に重任二期の間、好く自治の本旨を體し、其の公平なる見地より諸般の議事を賛し、一朝事の起るや常に朝參幕退倦む處を知らず、質溫良、而して謹慎寡言、其の仁慈に富み人を憐れむの美德は、佛心聖者にも見まほしき所、里巷に多くの借家を有す、時代思潮の關係にも疎らんかなれど、近時借家人關係の錯綜紛議を見る秋、獨り氏の處にありては之れあらず、店子慈父の如く氏を慕ひて敬す、徳教も故あり、



氏助之松田前

氏は當町の東隣桑野村大字畑の生れにして、福開を辭し前途に大なる希望を抱きて現在の呉服糸物商を開業したるは明治二十年の春候なりき、性質溫良にして恭謙聊かの圭角も藏せず、洵に當代好箇の商人の典型たるを失はず、其の八面玲瓏たる、一人の氏を詳議するもの無し、斯くして信望厚きを加え、家運益々隆昌せる又所以なきにあらざるなり、大正六年四月再度選ばれて町會議員に舉げられ、本年四月再度選ばれて其の任を重ぬ、奥の教と思ふべきなり、氏の令息金吾氏は陸軍歩兵少尉として前途は春秋に富み池田在郷軍人分會副會長として郷閭の爲めに盡す、洵に乃父の名譽しめざるも氏の幸福や羨望に堪えずとすべし



氏助幸本岡



氏松由田武



氏郎三榮田吉

弱冠にして既に公的生活に一身を委れ、爾來三拾有餘年間孜孜として匪懈公事の爲め、能く功績あまねくも尙ほ之れを誇らずして盡く奉公を是れ事とせざる、氏の如きは稀に見る處なり、明治廿三年荒木町區長に推されしは實に氏の二十三歳の時、超えて二年後の廿五年五月には町會議員に選ばる、廿七年三月本町に農會創立せられるや氏亦推されて其の會長と爲る、區長と農會長は爾來繼續して今日に至り、町議の職は七期を重ねて今期亦其の選良の椅子を占む、以て氏の衆望と手腕の一斑を知り得べく、其の他郡會議員、郡立農林學校教授たりし事あり、現在郡農會幹事、池田耕地整理組合副長を兼ね、性溫良、恭敬の念厚し、

氏は兵庫縣武庫郡御影町の産、長じ武田家に入り其の姓を襲ふ、天資溫厚篤實にして又潑刺たる英氣あり、機に臨み變に應ずるの才略に富み、頗る理財の技に長ぜり、明治二十年五月池田町會議員に選ばれ、廿二年四月町制實施と共に選功勤なからず、又明治十八年に於いては池田郵便局長として、當時未だ尙ほ幼稚の域を脱せざる通信事務の爲めに刷新向上の途を開く處ありき、明治二十年五月七日西之口町區長に就任してより今日に及び、三拾有餘年の間日夜公共の事に奔走して溫席の暇無く、町民の信望敦厚なり、榮餘帝國生命保險、日本國債の代理店を營む、

資性極めて溫良にして曾て人との事を構へず、容言の稜度ありて自他の言議を尊重し、其の言ふ所即ち之れを行ひ、其の行ふ處は即ち成る、而も驕らず慢らず、實踐躬行を以て唯一の信條とせる所は、實に欣慕すべきの美質にして、又修養の宜しきを得るにあらずんば能はざる所なり、獨り其の徳を欣慕し、今期推して町議に舉ぐ、少壯有爲の人材として望みな囑せざるや云ふ迄もなし、攝池銀行及び池田製氷株式會社の監査役として、今名亦夙に高し、累代酒造を業とし家願一芳醇の譽れ四隣に聞ゆ、先老辨吉氏は前町長として八面玲瓏、圓熟せる才腕を以て知られてなり、其の後嗣として卓抜の氏あり、家門の光榮見るべし、



氏郎三儀田永



氏一貫場弓



氏治長田原

家業として代々呉服商を営み、市内有数の大商賈として聞え高し。氏は資性極めて温良にして仁慈に富み、通達なる君子の肌の人なり。而も輕躁浮薄なる現代の思想を厭ひ、身を持す事極めて謹嚴、一意専心家業に努めて他を知らざりし、一時勢の推移は氏の活動を要求して止まず、乃ち今期推されて町會議員に舉げられ議席に列す。貴盟の間、氏を以て最年少者と爲す。前途春秋に富み、更に希冀多き將來を囑目せざるべからず。振池銀行及び池田自動車株式會社の取締役を兼ね、夙く斯界に名を爲す。氏趣味を和歌に有し俳句に抱き、風流雅趣を展べて名吟秀逸の妙なからざる事は、吟友の間に已に定評あるを以て知るべし。

氏は往古著名の驛路に馬鈴の響き絶へざる名産の邑に生る。幼にして河原實翁に漢籍を修め、長じて大阪高等醫學校に入り三十三年を以て卒業す。後東京に出て永樂病院の助手たり、當時既に氏の手腕は手術によりて發揮され、令聞斯界に洽し、三十九年大阪に來たりて高安病院に攻し造詣頗る深く、三十九年當地に私立博愛病院を開業し今日に至れり。其の大坂に在りし頃北野泰山寺に參禪し、悟道克く徹底して超凡の資實に富む。性落俠氣に富み、機變に隨應して一決處断の決意あり。即ち彈より來れる美徳と云ふべきなり。新町議中、異彩ある士として町民注目目的なり。

氏は天資温厚篤實にして、而も最も進取の氣象に富める實業家的才幹の多量な賦有す。氏人と接するに極めて誠實、障壁を設けずして能く談じ、言々句句皆肺腑より出づ。孟軻の至誠天を貫くを云へる言、氏に於いて始めて見るを得べし。町會に於ける一異彩として、和參の今日既に早く一方の領袖たるの觀あり。英雄家康と其の出身を同じうして三河國に生きたりて官界に身を投じ、後神戶へ來りて官界に身を投じ、二十三歳の時巡査部長を拜命す。官界を退きて以來海軍御用商を創始したるも不幸陸路し、中山寺禁煙課に勤めて當地に移住す。考古學の造詣深し、隔日發行太陽日報を経営し二三會社の重役たり。



氏次定原野



氏松由本藤

氏嘗て軍籍に身を匿し事あり、陸軍歩兵軍曹の肩書を有す。當町の生れにして性豪毅沈澁、激濁たる才氣は眉間に横溢す。世々沈重なるものは自我の念強く、才氣の人往々に輕薄子たるを免れざるものあり、雖然氏に至りては然らず。人に接して容言の雅量あり、而してまた誠實を失はず。之れ野克氏の修養の宜しきを得たる所以ならん、又以て軍隊の教養與つて力あるべし。新進町議中の白眉として舌鋒辛辣、時に對者の肺腑を抉らずんば已まざらん、而も嘗て町書記を奉ぜざるを以つて、町政に通曉せる選條中氏の右に出づるもの無く、常に正義を旗幟に公事に奔走し、宛然國士の面目躍如たるは町政上の珍さす。

夕に絃歌過ぎ晨に喃語絶ざる當町一流の青楓、富士市樓の當主は即ち氏なり所謂花暗柳明、溫柔の郷に身を挺せり。雖も氏天資極めて温順誠實毫も一片の浮薄性を帯びざるは氏の凡人にあらずる事を證左するもの、又以て嘗て軍籍に在りし修養の賜か、加之、沈重にして能く察し快風く己に定評あり。町議の外に區長を兼ね公事の爲めに奔命するも倦まず。在郷軍人分會員として樞要の地に在り、よの良民の範を垂る。吳服檢商事株式會社の取締役、池田興業株式會社の監査役に就き、商事會社の今日社運隆昌たるに至りし社體は、一に氏の力與つて大なりと云はる。

浦山律氏

家にして、幼にして異郷の地に在り、其の呱呱の聲を擧げたるは九州長崎縣下に於いてなりき。長じて夙く事業家としての靈腕あり、明治二十九年九月浦山セルロイド株式會社を興し、自ら其の社長に任ず。當時セルロイド事業は未だ幼稚にして世人の好尚に投ぜられざりしも、氏の先見の明はして前途に大なる光明を認め確信を抱き激濁たる鬼才の横溢するが儘東奔西走縱横の機略を廻らして遂に今日の成功と地歩を贏ち得、今や斯界の權威者なを以て目され居れり。嘗てセルロイド同業組合副組長及び日本輸出セルロイド製品同業組合聯合會の組長代理副組長たりし事あり。現在同上各評議員たり新市街の選良として名高し。

池田本町

御旅館
御料理
富士市樓

電話 五十九番

第二章 教 育

池田町に於ける現在教育機關としては府立池田師範學校を始め同附屬尋常高等小學校、池田町立尋常高等小學校及び同附設池田手藝女學校等在り。而して池田師範學校の前身は府立池田中學校にして、始め池田中學校が此の地に設置開校せられるや、年ならずして地情と交通其の他の關係に依り生徒入學の成績豫知の如く振はす校運また萎微の傾きあり、偶々府學務當局に於いては師範教育の肅振作興の必要に迫られ居たる折柄とて乃ち茲に池中を廢して池師を置く事に決し、明治四十一年三月十二日文部省告示第七九號を以て之れが稟請認可あり、同年四月一日新設池田師範學校は舊池田中學校の敷地及び建物全部を譲受けて開校するに至れり。又同校附屬小學校は元池田町立第一尋常高等小學校にして師範校の代用附屬小學校たりしも、大正八年四月池田町が同校敷地及び建物全部を府へ寄附し以て專屬の附屬小學校に改められたり。尙ほ又町立小學校附設手藝女學校は大正四年當町に普通程度の女教育機關缺如せるを遺憾として創設せられたるものにして、最初池田町始め附近五箇村の組合立なりしも現在は町負擔を以て經營せられ居れり。而して一方當町は住民の出入移動頻繁なるに依り町當局者は學校當事者と協力留意し、學校兒童は戸籍及び寄留簿に就いて精査の上就學に洩るゝ事なきを努め、不就

第四編池田町第二章教育

七七

學者は實地現狀を査察して極力出席の勸説督勵に意を注ぎ、貧困其の他特殊の事情により萬止むなく義務教育を完ふする能はざる者には夜間教育を施行しつつあり。

府立池田師範學校 上池田町字茶白山に在り。敷地九千三百五十六坪餘にして建坪千八百九十五坪餘、外に農業實習地九百五十七坪あり。現在學級及び生徒數は左表の通りにして此の外

學級及生徒數 (大正十年五月一日現在)

學級數	一學年	二學年	三學年	四學年	計	第二部 豫備科	計
生徒數	七〇	三四	三一	三〇	一六五	八一	二八八
						八	八
						炊事場、浴室等あり。	

本校創立以來の學校長

自明治四十一年三月廿七日
至大正五年九月二十日
自大正五年九月二十日
至大正六年七月六日
自大正六年七月六日
現在職員(大正五年十月一日現在)

前任德島縣立高等女學校校長
轉補奈良縣女子師範學校校長
前任熊本縣第二師範學校校長
依願免本官
前任三重縣女子師範學校校長

山岡光太郎
武井悌四郎
東基吉(現任)

職名 就職年月 氏名

校長	六、七、六	東基吉	職名	就職年月	氏名	職名	就職年月	氏名
教諭	八、四、二	萩原繁太郎	教諭	九、二〇、三	石畑 輝一	教諭	二〇、三、二	會澤 龍平
教諭	八、一〇、二	阿保 談二	教諭	二、三、三	海老原末吉	教諭	八、三、三	川井幸次郎
教諭	九、六、二	名米 孝	教諭	八、四、七	小部 卯八	教諭	八、三、七	滿藤馬之助
教諭	九、三、三	肥後 延壽	教諭	一〇、三、三	斯波 六郎	教諭	九、四、六	福土 繁吉
訓導	二、四、一	木下 米松	教諭	一〇、三、三	松尾 正夫	訓導	二〇、三、三	高山萬次郎
訓導	二、三、三	安井 三郎	同	八、三、三	西脇 堯二	同	九、一、二	宮地 庄吉
訓導	八、六、三〇	大谷 幸作	同	一〇、三、三	岡井 一八	同	八、三、三	中島惠三郎
訓導	九、八、二六	駒木 根庸	同	一〇、三、三	伊豆田次郎	同	七、四、一	中家 秀
訓導	九、三、三	大熊光次郎	同	一〇、三、三	田中範四郎	同	九、三、三	平岩 久信
書記	九、四、三	柴田 義一	同	一〇、三、三	梶田佐一郎	同	八、二、一	祝 莊太郎
書記	八、三、三	松井重太郎	同	一〇、三、三	井上 信	同	九、三、三	佐々木 久
囑託	七、一〇、七	志賀 矩	同	九、一〇、三〇	小泉 重信	囑託	九、七、七	佐村嘉一郎
助手	二〇、三、三	野間 啓介	校醫	四、三、九	谷 軍次郎	助手	六、二〇、三	平井青一郎

最近經常費累年一覽

第四編池田町第二章教育

七八

第四編池田町第二章教育

七九

年度	年給	雜給	生徒諸費	校費	附屬小學校費	修繕費	其他	合計
大正元年度	一四、四四〇	二、四四〇	四、九四〇	四、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二六、二二〇
大正二年度	一四、〇〇〇	二、四四〇	四、九四〇	四、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二六、二二〇
大正三年度	一四、〇〇〇	二、四四〇	四、九四〇	四、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二六、二二〇
大正四年度	一四、〇〇〇	二、四四〇	四、九四〇	四、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二六、二二〇
大正五年度	一四、〇〇〇	二、四四〇	四、九四〇	四、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二六、二二〇
大正六年度	一四、〇〇〇	二、四四〇	四、九四〇	四、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二六、二二〇
大正七年度	一四、〇〇〇	二、四四〇	四、九四〇	四、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二六、二二〇
大正八年度	一四、〇〇〇	二、四四〇	四、九四〇	四、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二六、二二〇
大正九年度	一四、〇〇〇	二、四四〇	四、九四〇	四、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二六、二二〇
大正十年度	一四、〇〇〇	二、四四〇	四、九四〇	四、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二六、二二〇
生徒一人平均學資金調	(大正十年度)							
種目	一年	二年	三年	四年	二年	豫備科		
食費	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇		
學用品及雜費	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇		
校友會費	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇		
修學旅行費	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇		
臨海教授費	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇		
被服費	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇		

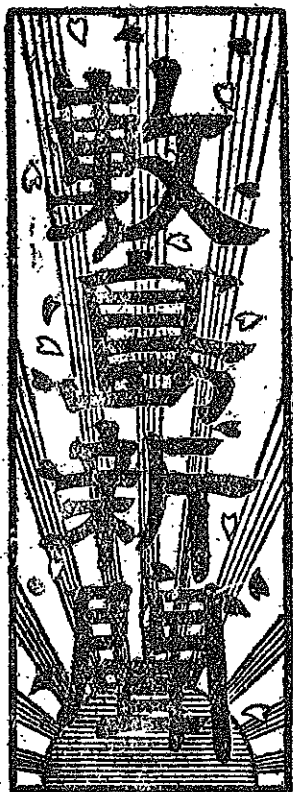
備考 計各欄の右は柔道、左は剣道を修むるものなり。尚ほ通學生には本表中の食費は不要なり。

靴下上費	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
手工用具費	六、五〇〇	六、五〇〇	六、五〇〇	六、五〇〇	六、五〇〇	六、五〇〇	六、五〇〇	六、五〇〇
洗濯費	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
柔道着費	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
面下甲手及竹刀費	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
計	二九、九〇〇	二九、九〇〇	二九、九〇〇	二九、九〇〇	二九、九〇〇	二九、九〇〇	二九、九〇〇	二九、九〇〇
府下小學校奉職	二五、四〇〇	二五、四〇〇	二五、四〇〇	二五、四〇〇	二五、四〇〇	二五、四〇〇	二五、四〇〇	二五、四〇〇
退職	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇
中等學校奉職	二、六〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
官公吏	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
死	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
計	三三、九〇〇	三三、九〇〇	三三、九〇〇	三三、九〇〇	三三、九〇〇	三三、九〇〇	三三、九〇〇	三三、九〇〇
管外小學校奉職	二五、四〇〇	二五、四〇〇	二五、四〇〇	二五、四〇〇	二五、四〇〇	二五、四〇〇	二五、四〇〇	二五、四〇〇
高等の學校在學中	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
本校の第一部又は第二部に在學中のもの	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
不明	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
計	三三、九〇〇	三三、九〇〇	三三、九〇〇	三三、九〇〇	三三、九〇〇	三三、九〇〇	三三、九〇〇	三三、九〇〇

尋常科	男 二百三十一人	女 二百三十三人
高等科	男 六十三人	女 三十三人
總計	男 二百九十四人	女 二百六十三人

池田小學校及手藝女學校 池田小學校は現在槻木町に在り。創立は明治六年にして第一番小學校と稱し翌年二月開校同十四年十一月池田小學校と改稱同二十一年四月高等科を豊能高等小學校に移したるも同二十八年三月同校廢校の結果池田師範學校附屬小學校に代用同四十四年一月池田第二尋常高等小學校増設されしを以て本校を池田第一尋常高等小學校と稱せしが大正八年四月附屬小學校となりし爲第二小學校を廢し池田尋常高等小學校名を繼承して今日に至れり其敷地は阪急電鐵會社の借用地なるが就學兒童激增の爲現在校舍は狹隘を告げて到底満足に收容する能はず、且つは校舍頽廢に傾けると現在敷地にては校舍増築の餘地なきを以て、昨年末より本春へかけて池田町會は幾多の迂餘曲折を経たる後遂に本校移轉新築の件を議決確定したり。乃ち新築移轉の地は荒木町の東方六千七百九坪にして、之れが土地買收費及び第一期建築費は十二萬三千七百二十六圓なり。目下第一期工事は佐藤技師設計の下に三萬六千九百九十五圓を以て勝村組が請負ひ、建坪四百三十四坪(教室及び便所共)の建築中に属す。而して現在本校の學級數は十六學級にして、生徒總計一千百五十五人、尋常科一千四十七人(男五〇二、女

偏せず黨せず記事の正確を以つて特色とす
花柳界の警鐘臺ありと稱する



三月回發行

本紙一部金五錢一ヶ月金拾五錢
廣告料五號活字十四字詰一行一回五拾錢
掲載位置指定料金同一回金三倍增

本社

大阪府下池田荒木町
三千〇六十八番地



數島新聞社

社主 藤原重俊

資本金拾五萬圓

大正十年五月創立

池田興業株式會社

大阪府下池田田中町

取締役社長	細原茂雄	取締役	寺部福太郎
取締役	福田貞三郎	監查役	原田長治
取締役	藤本由松	監查役	藤井福松
取締役	楠留吉		

五四五) 高等科百八人(男六六、女四二)なり。又附設手藝女學校の學級數三、生徒八十八人に
して新築小學校落成の上は從來通り同校附設に屬すべき豫定なり。

池田小學校及手藝女學校職員 (大正十年十一月現在)

氏名	就職年月	氏名	就職年月	氏名	就職年月		
西村宗三郎	八、七、三	松井竹治郎	九、三、三	濱田政一	九、三、三	上田龍三郎	九、一〇、五
狩野卯一郎	三、一〇、七	前田重市郎	一〇、九、三	田中芳久	八、五、三	山田嘉市	八、三、三
百々野靜照	九、四、六	菊川豐	一〇、九、一〇	山中濟	一〇、三、三	高部せい	二、一、一〇
鹿島小伊都	八、三、三	宮村みつ	七、一〇、三	木多拾	九、五、九	米澤ユキ	七、二、一〇
佐々木眞靜	八、六、三	廣田アイ	二〇、九、七	亘篤	九、五、七	三宅靜子	九、二、二
生濟彦太郎	七、八、三〇	飼田商七	六、二、三〇				

第三章 兵 事

壯下豫習教育方法 毎年實施日數三十日間にして各壯丁を町役場に招集し池田在郷軍人分會
長始め其の他分會關係者が之れが教育の任に當り之れを行ひつゝありて相當の好成績を示し居
れり。

關西婦人雜誌界之權威

月刊雜誌

婦女の友

每月一日
一回發行

▽定價金一部金五拾錢（郵稅貳錢）

大阪府豐能郡池田町

婦女之友社

電話池田一二七、振替口座大阪五七九五五

大阪市北區宗是町三九

大阪事務所

電話土佐堀一六八三番

骨董商

川邊郡川西村

吳服橋西詰

景井虎吉商店

設備の完全せるは北攝第一

各種 木材 賃挽 及 請負

川西村中橋西詰



北常製材所

電話池田壹〇貳五

大正七年開業
資本金壹萬圓

兵庫縣川邊郡川西村小戸

合資 猪名川製釘所
會社

代表社員 石井佐市

池田元新町

小兒科

愛知
醫學士

福田醫院

院主 福田勝助

電話池田百二十五番

地方には地方の天地がある。

我等は我等の行くべき途がある。

北撮新報

兵庫縣下伊丹町

北撮新報社

社長 久下竹松

小なりと侮るまかれ。

我等の天職は大小を超越して重し。

綿毛メリヤス
シルケツト
綿毛染晒
其他一般染工

兵庫縣川邊郡川西村小戸

吳服染晒工場

煙草元賣捌所

池田米屋町

和田才治郎商店

電話二百五拾壹番

内務省指定藥品販賣所

毒物劇物取扱販賣所

應症各製劑調合所

帝國製藥株式會社

代理店

株式會社加藤翠松堂

代理店

星製藥株式會社

特約店

往屋製藥株式會社

代理店

藥品賣藥卸賣問屋



豐能郡池田南新町
山口鳳聲堂藥房
商ヤクカ

砂糖菓子商

池田建石町

種儀支店

店主 佐々木綱次郎

海川魚料理

うなぎまむし

池田北新町(ケン先)

一福

菓子製造

砂糖 掛物 卸小賣

川西村新宅橋西詰

浪花堂

店主 山本力松

萬國瓦販賣所

川西村鶴之莊

(吳服橋西詰筋)

櫻梅商店

店主 櫻井梅太郎

菊正宗特約店

アサヒビール特約店

寶味淋特約店

蜂印香竄葡萄酒特約店

池田建石町

加味酒店

店主 加味朝之助

ポンプ器具販賣

衛生工事
上水道工事
洗便器取付
其他修繕工事

中川ポンプ商店

店主

中川幸一

出張所

池田停留所魚治樓横
池田町小阪前

馬力荷物運搬業
並ニ

馬糧販賣
蹄鉄工場常設

車輪十數臺備付アリ如何ナル
大荷物ニテモ迅速ニ運搬仕ル
ベク候

池田之西町吳服座南隣

藤井組

藤井熊吉

建築請負業

寺林卯之松

阪急池田停留所前
電話池田二百五拾番

庭石販賣

陳列所 池田停留所前魚治横東ニ入ル

サクラビール

北雪印發賣元

寶味淋

しら泉

特約店 岩井酒店

京印醬油

攝津池田町
電話一二四番

和洋建具
製造販賣

池田本町阪之上

今井指物商店

第一工場 池田建石町阪の上

第二工場 池田林口町(松ノ下託明寺前)

阪神急行電鐵株式會社

工事代理

池田建石町

辻田電氣商會

主 辻田辰藏

池田綿布工場

工場 豐能郡池田宇保町

高野鐵道沿線長野町

辻田電氣商會支店